

第7回いしかわの森づくり検討委員会議事要旨

<いしかわの森づくり財源検討部会報告書について>

(角委員)

広く県民に理解を求めるという中で、検証期間について長すぎるなどの意見は部会でなかったのか。

(中島部会長)

部会では、新制度をきちっとしたものに構築していくために、一定期間後の検証が必要と言うことで、異論はなかった。

(東方県農林水産部長)

部会の中では、ある程度実施期間を設定し検証した上で、必要に応じて見直しを検討することが適当とされたわけで、その期間等については、本委員会で事業規模等の議論を経た上で、設定されることとなる。

(丸山委員長)

検証していくための委員会を設けていくということは、次のステップとなる。部会で幅広く検討した結果、超過課税方式が現実的という報告をいただいたと理解している。

<今後のいしかわの森づくりで想定される整備の手法及び事業規模>

(角委員)

白山市、加賀市等で7月豪雨による災害が発生したが、自然や森林の大切さを県民にPRしていくことが大事である。

(大西委員)

森林の現状や役割、森林整備の取組等について普及・啓発するとなっているが、具体的な方法は何か。

(東方県農林水産部長)

当委員会で現地調査にいった白山市白峰の西山地区では、毎年森づくりボランティア活動を行っているが、例えばそのような機会に手入れ不足林を見ていただく工夫も必要であると思う。

(山本県森林管理課長)

資料1の附属資料の22ページ以降に、本県での取組事例を記載してあるが、今後、

フォーラム等を必要に応じて開催していきたいと考えている。

（角委員）

学校教育の中で、教育委員会と連携しながら子供達に対して、森林の役割等について教えていくことが重要であると思う。

（石倉委員）

森林環境教育を通じて、子供達に感想文を書かせるなどの取組が必要であると思う。

（米谷委員）

白山水系の恩恵や辰巳用水によって加賀が栄えたという歴史的背景を踏まえ、水の大切さを普及することも必要であると思う。

また、水源地域等の森林の中で、既存制度の対象外のところから優先的に整備していけばどうか。

（東方県農林水産部長）

どこを優先して整備していくかについては、これから検討しなければならない。また、新たな財源制度の中では、子供達が水や森林の大切さを理解できる工夫をしていきたい。

（有川委員）

山村では森林所有者の高齢化、少子化が進んでおり、森林の荒廃をこれ以上進めないためにも、新たな森づくりの早い実施が期待されている。

（鶴山委員）

さきほどから水の話が出ているが、新たな森づくりを進める上で、地下水の利用者に対する負担を考慮する必要があるのではないのか。

（中島部会長）

地下水は、法律的には無主物先占の扱いとなるので、新たな森づくりの財源対象とするには、課題が非常に多い。

（木場委員）

新たな財源を森林整備だけに充当することはできるのか。

（東方県農林水産部長）

報告書にあるように新たな財源は基金で区分経理し、用途を明確にしていきたい。

（西村委員）

国で検討している環境税が施行され、森林整備に充当されることになった場合は、この新たな財源との整理をどうするのか。

(東方県農林水産部長)

環境税が森林整備に充当されることが明らかになった段階で、適切な見直しが必要となってくると認識している。

(丸山委員長)

「新たな財源として超過課税方式とした部会での整理」及び「今後想定される整備の手法と事業規模」については、大筋でご了承していただいたとしてよろしいか。

よろしければ、本日出された意見として、森や水の大切さ、農林業の大切さを県民に対して普及し、さらには学校教育を通じた取組が必要ということで集約してよろしいか。

(全委員)

異議なく了承